

発刊に寄せて

平成28年熊本地震及び同年6月の梅雨前線豪雨から3年が経とうとしています。改めまして犠牲になられた方々とそのご遺族へ謹んでお悔やみ申し上げますと共に、被災された皆様へ心よりお見舞いを申し上げます。

また、発災直後よりいただきました全国の皆様からの多大なるご支援ご厚情に心から感謝申し上げます。

平成28年熊本地震は、観測史上初めて、わずか28時間の間に同一観測点で2度も震度7を記録し、その後も余震が半年間で4,000回を超えるなど、各地に甚大な被害をもたらしました。

本町におきましても、平成28年4月14日(木)午後9時26分に震度5強(前震)、16日(土)午前1時25分に震度6弱(本震)を記録し、町のシンボルである国指定重要文化財の通潤橋をはじめ、住家や宅地、水道や道路等の町民の生活基盤に多大な被害をもたらしました。そして、この地震によって多くの町民の方が被災され、断続的に続く余震の恐怖から生じる不安な日々と、不便な生活を余儀なくされました。

更に、同年6月20日から21日未明にかけて降り続けた梅雨前線豪雨は、先の地震により緩んでいた地盤へ時間雨量126.5ミリを記録する豪雨が猛威をふるい、斜面崩壊による被害等が発生し、本町に深刻な影響を及ぼしました。特に農林業災害は2,600件以上発生するなど、基幹産業である農林業は大きな打撃を受けました。

このような中、本町では発災直後から速やかな復旧・復興に全力で取り組んできたところです。この貴重な経験を風化させることなく、発災から今日までの復旧・復興に向けた取組状況、そして震災で直面した課題やそこから得た教訓を次世代へ継承し、将来の災害に備えるための一助とすることを目的として、記録誌を作成しました。

本町の復旧・復興へ向けた道のりはまだ半ばですが、一日も早い復興を目指し、皆様からのご支援に対する感謝を胸に、これからも一歩ずつ着実に前進してまいります。

結びに本誌の作成にあたり、取材やアンケート調査、資料の提供にご協力くださいました多くの方々に、心より感謝申し上げます。



平成31年3月

山都町長

梅田 穰